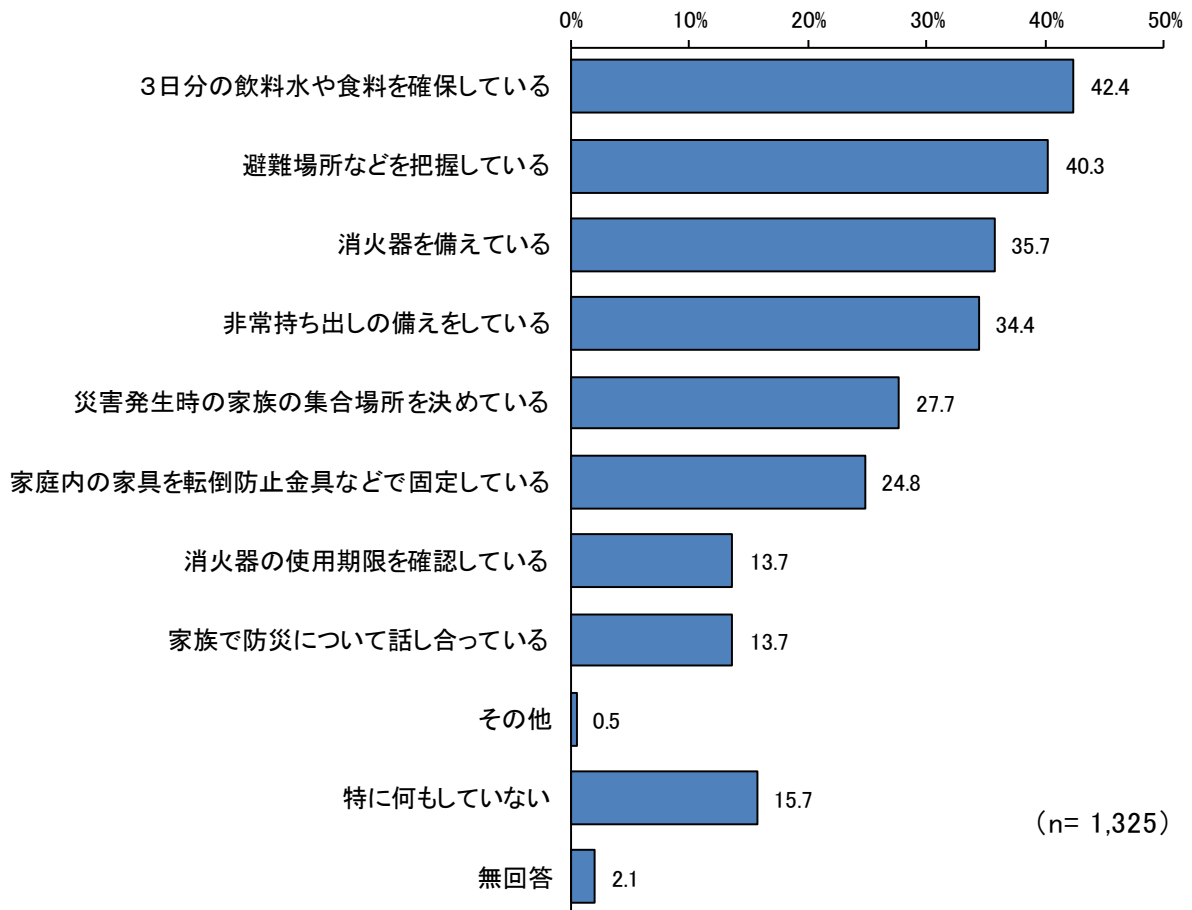


6. 「防災」について

「問 39 災害の被害を最小限に抑えるためにしていること」(複数回答) - 1

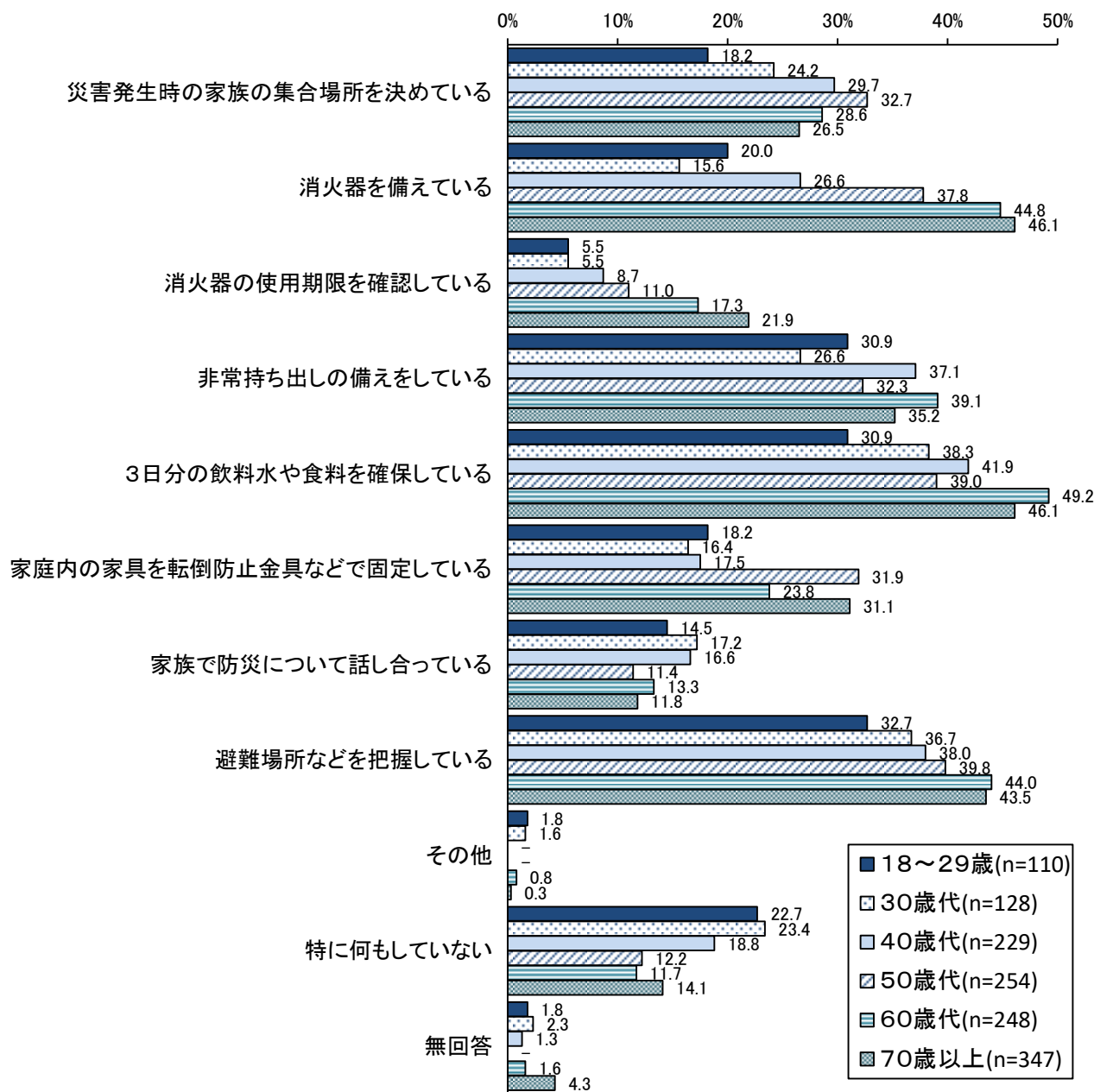
災害の被害を最小限に抑えるためにどのようなことをしているか尋ねたところ、「3日分の飲料水や食料を確保している」が4割強で最も高く、次いで「避難場所などを把握している」が約4割となっている。以下、「消火器を備えている」「非常持ち出しの備えをしている」が3割半ば、「災害発生時の家族の集合場所を決めている」「家庭内の家具を転倒防止金具などで固定している」が2割台などとなっている。なお、「特に何もしていない」は1割半ばとなっている。



「問 39 災害の被害を最小限に抑えるためにしていること」(複数回答) - 2

年代別にみると、「3日分の飲料水や食料を確保している」「避難場所などを把握している」など、**おおむね**年代が上がるにつれ割合も高くなっているものが多い。若年層の方が災害への備えがなされていない傾向がうかがえ、「特に何もしていない」は18~29歳・30歳代で2割を超え高くなっている。

【問 39_年代別】



「問 39 災害の被害を最小限に抑えるためにしていること」(複数回答) - 3

地区別にみると、「3日分の飲料水や食料を確保している」はL地区、M地区、H地区、C地区で5割近くと高くなっている。「避難場所などを把握している」は、I地区が唯一5割を超え最も高く、次いでH地区、M地区、L地区が4割台となっている。この項目は、地区により差が大きく、最も割合の低いE地区では約2割となっている。

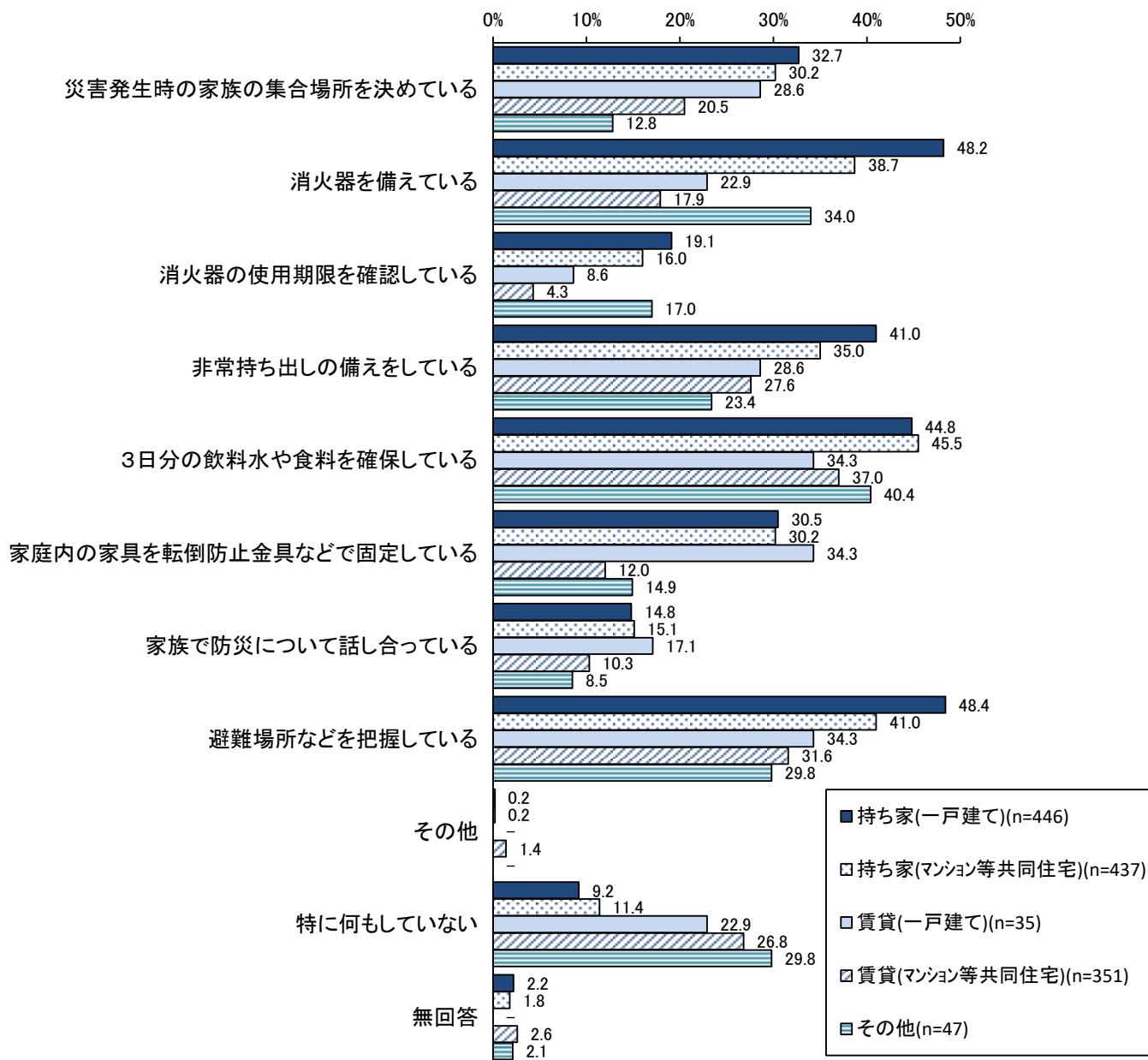
【問 39_地区別】

		場災	消	し消	て非	確 3	金家	合家	い避	そ	特	無
	n=	所害	火	て火	い常	保日	具庭	っ族	る難	他	に何	回
		を発	器を	器の	る持	し分	など	っで	る場		もし	答
		決生	備え	の使	ち出	の飲	の家	い防	所な		てい	
		め時	てい	用期	しの	料水	具を	につ	など		ない	
		ての	る	限を	の備	や食	転て	いて	を把			
		家族	る	を確	えを	料を	倒い	話し	握し			
		の集		認	し		防					
		合					止					
全体	1,325	27.7	35.7	13.7	34.4	★42.4	24.8	13.7	40.3	0.5	15.7	2.1
A地区 (第1北部地区)	78	23.1	★34.6	9.0	33.3	★34.6	16.7	6.4	★34.6	3.8	17.9	2.6
B地区 (第1地区中部のうち、 長者町を除く)	106	19.8	27.4	8.5	26.4	★37.7	19.8	5.7	31.1	0.9	24.5	-
C地区 (関内地区)	44	20.5	31.8	15.9	27.3	★47.7	29.5	11.4	31.8	2.3	25.0	2.3
D地区 (埋地地区のうち、寿 町・松影町・三吉町を除く)	84	26.2	32.1	10.7	31.0	★40.5	17.9	9.5	31.0	1.2	25.0	2.4
E地区 (寿地区のうち、扇町・ 長者町を除く)	27	14.8	22.2	3.7	25.9	★33.3	7.4	11.1	22.2	-	★33.3	7.4
F地区 (石川打越地区)	39	25.6	35.9	10.3	★38.5	★38.5	30.8	17.9	★38.5	-	7.7	-
G地区 (第2地区)	167	28.1	40.1	15.0	34.1	★41.3	22.8	14.4	38.3	-	15.6	2.4
H地区 (第3地区のうち、滝之 上を除く)	218	26.6	45.0	14.2	35.3	★48.2	24.3	17.4	47.7	0.5	13.8	2.8
I地区 (第4地区南部のうち、 本牧荒井を除く)	109	27.5	37.6	12.8	43.1	39.4	28.4	12.8	★56.0	-	7.3	4.6
J地区 (第4地区北部のうち、 山手町を除く)	53	30.2	26.4	13.2	43.4	★45.3	35.8	18.9	32.1	-	11.3	3.8
K地区 (本牧・根岸地区のう ち、本牧原を除く)	194	33.5	★40.2	18.6	34.0	38.1	30.4	14.9	38.7	-	15.5	0.5
L地区 (第6地区のうち、山手 町を除く)	115	36.5	36.5	17.4	38.3	★49.6	27.8	15.7	44.3	-	11.3	0.9
M地区 (新本牧地区)	81	29.6	16.0	13.6	29.6	★49.4	24.7	13.6	46.9	-	12.3	2.5

「問 39 災害の被害を最小限に抑えるためにしていること」(複数回答) - 4

居住形態別にみると、「避難場所などを把握している」「消火器を備えている」「非常持ち出しの備えをしている」など、持ち家(一戸建て)居住者が最も高い項目が多くなっている。

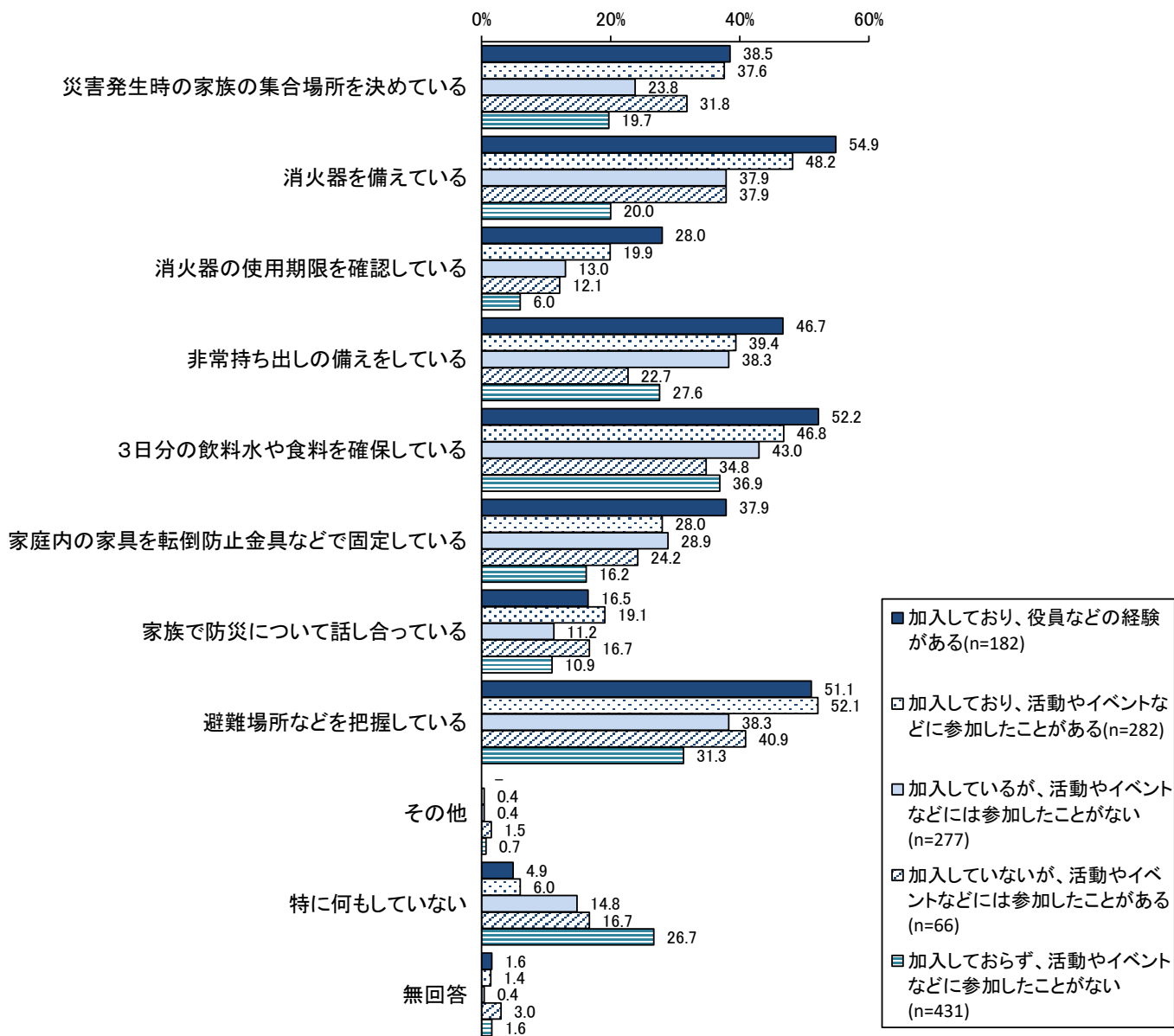
【問 39_居住形態別】



「問 39 災害の被害を最小限に抑えるためにしていること」(複数回答) - 5

自治会町内会加入・活動等参加状況別にみると、加入者や活動・イベント参加の経験がある人の方が、おおむね備えをしている割合の高い傾向がみえる。『加入しておらず、活動やイベントなどに参加したことがない』という人では、「特に何もしていない」が2割半ばと高くなっている。

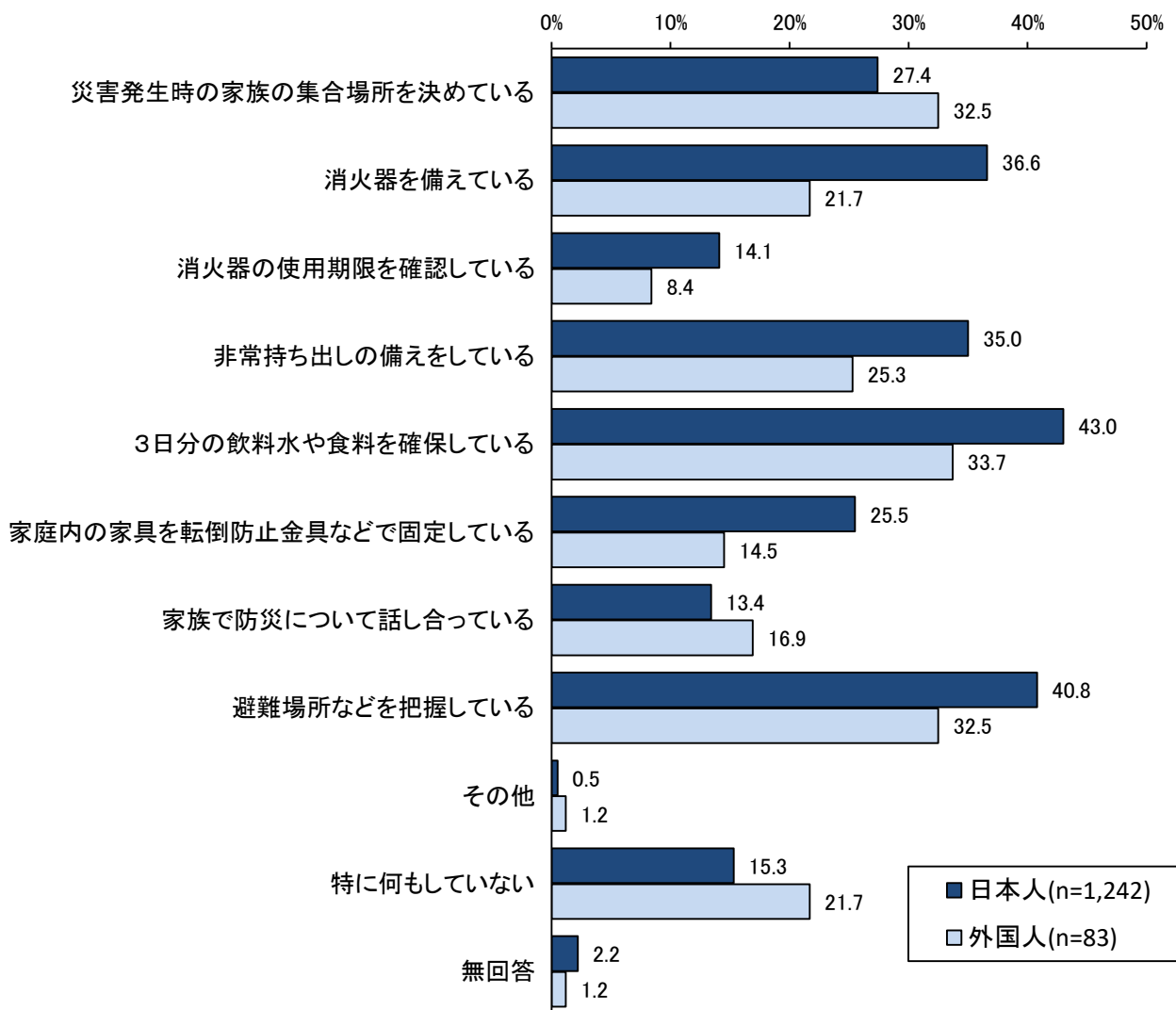
【問 39_自治会町内会加入・活動等参加状況別】



「問 39 災害の被害を最小限に抑えるためにしていること」(複数回答) - 6

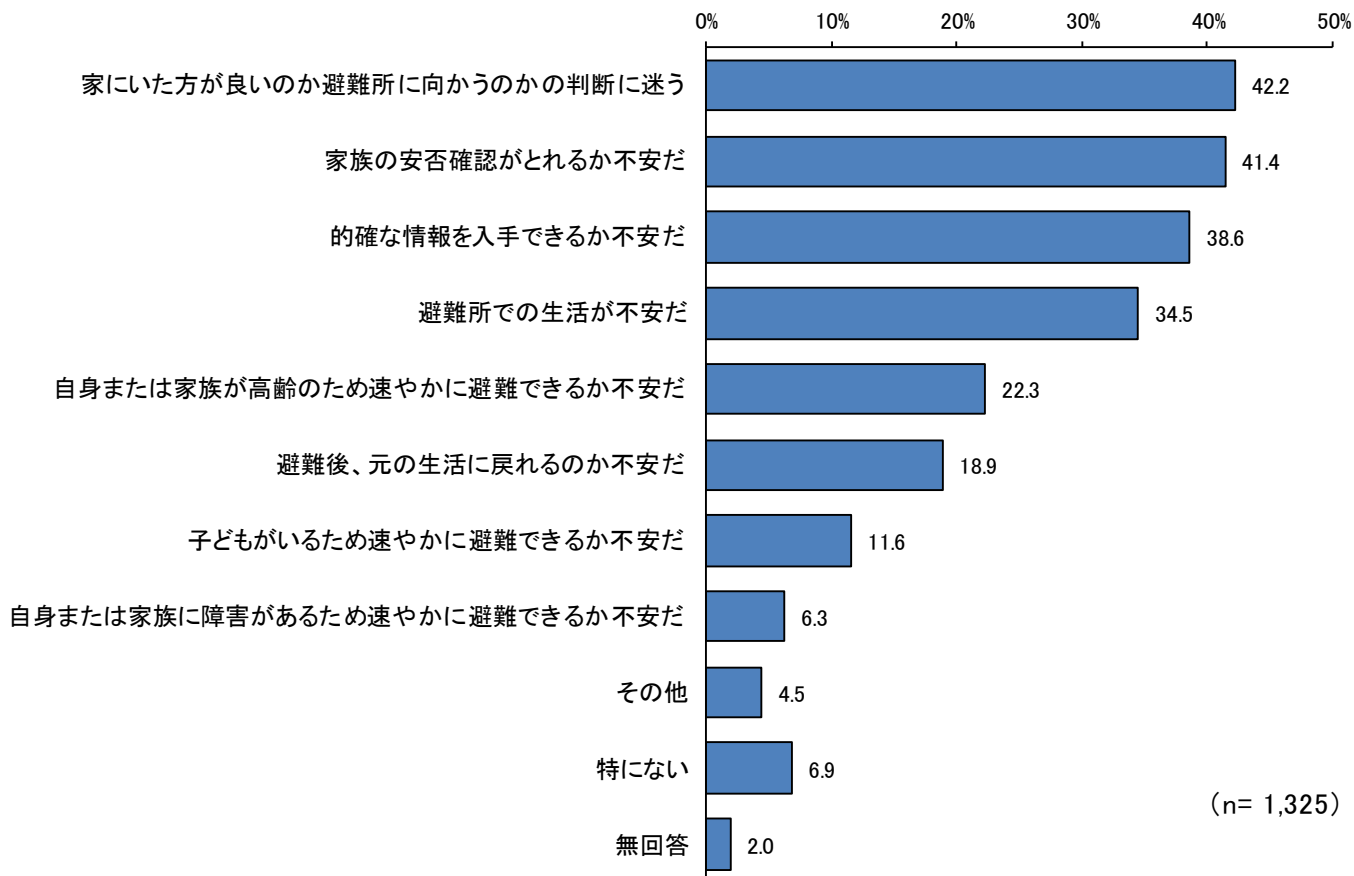
日本人/外国人別にみると、「3日分の飲料水や食料を確保している」「避難場所などを把握している」「消火器を備えている」「非常持ち出しの備えをしている」など多くの項目で日本人より外国人の方が低くなっている。一方、「災害発生時の家族の集合場所を決めている」「家族で防災について話し合っている」は外国人の方が高くなっている。

【問 39_日本人/外国人別】



「問 40 災害発生に対して不安に感じていること」（3つまで回答）－ 1

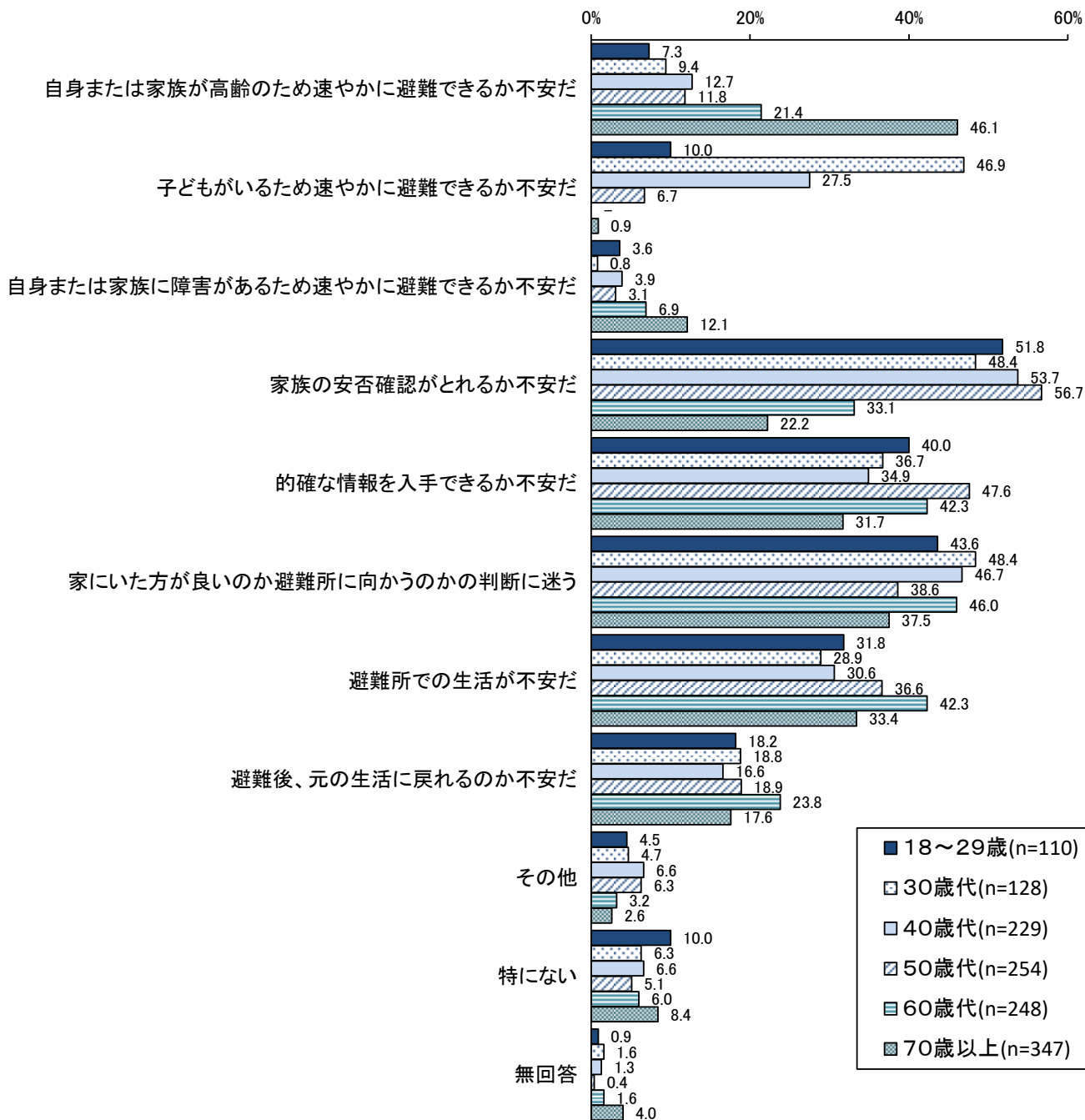
災害発生に対して不安に感じていることについては、「家にいた方が良いのか避難所に向かうのかの判断に迷う」「家族の安否確認がとれるか不安だ」が4割強で高く、次いで「的確な情報を入手できるか不安だ」「避難所での生活が不安だ」が3割台となっている。



「問 40 災害発生に対して不安に感じていること」(3つまで回答) - 2

年代別にみると、「自身または家族が高齢のため速やかに避難できるか不安だ」は70歳以上が、「子どもがいるため速やかに避難できるか不安だ」は30歳代がそれぞれ突出して高くなっている。

【問 40_年代別】



「問 40 災害発生に対して不安に感じていること」（3つまで回答）－ 3

同居家族別にみると、「家族の安否確認がとれるか不安だ」は、子供のいる人、祖父母・父母と同居している人で5割以上と高くなっている。「子どもがいるため速やかに避難できるか不安だ」は、15歳未満の子供のいる人で6割半ばと特に高くなっている。

【問 40_同居家族別】

(%)

	n=	かた不安だ	自身速やか避難できるとの	子どもがいないため速やか避難できるか	子どもがいないため速やか避難できるか	自身または家族に障害があるため速やか避難できるか	家族の安否確認がとれるか	家族的な情報入手できるか不安だ	避難所に向かうのが判断に迷う	家にいた方がよいのか避難所での生活が不安だ	避難後、元の生活に戻れるか不安だ	その他	特にない	無回答
全体	1,325	22.3	11.6	6.3	41.4	38.6	★42.2	34.5	18.9	4.5	6.9	2.0		
祖父（義祖父）	9	33.3	22.2	22.2	★55.6	33.3	33.3	11.1	-	11.1	-	-		
祖母（義祖母）	18	38.9	16.7	11.1	★50.0	33.3	33.3	22.2	5.6	5.6	5.6	-		
父（義父）	107	20.6	7.5	5.6	★56.1	36.4	40.2	31.8	17.8	4.7	6.5	3.7		
母（義母）	162	30.2	7.4	5.6	★51.9	34.0	38.9	30.9	17.3	6.2	4.9	3.7		
配偶者	822	20.7	17.4	5.8	★47.6	37.2	43.1	36.0	18.7	4.5	4.4	1.2		
兄弟姉妹	81	27.2	2.5	11.1	★40.7	38.3	35.8	35.8	22.2	3.7	3.7	3.7		
子（15歳未満）	207	8.2	★65.7	1.9	59.4	32.9	48.3	25.6	11.1	3.4	2.9	-		
子（15歳以上）	328	28.4	6.4	6.7	★50.3	39.3	41.5	34.8	21.3	3.4	5.2	1.8		
孫（15歳未満）	17	★47.1	29.4	5.9	29.4	35.3	35.3	35.3	5.9	5.9	5.9	5.9		
孫（15歳以上）	25	★64.0	-	16.0	36.0	28.0	28.0	36.0	8.0	4.0	-	4.0		
いない（一人暮らし）	255	22.0	-	4.3	18.0	★45.9	42.0	29.0	19.2	2.7	15.3	3.1		
その他	36	19.4	5.6	8.3	★44.4	38.9	33.3	★44.4	25.0	11.1	11.1	5.6		

<注釈>

- ・★は、全体および属性毎で最も高い割合の項目を示しています。
- ・網掛け箇所は、項目別の上位3属性を示しています。

「問 40 災害発生に対して不安に感じていること」（3つまで回答）－ 4

地区別にみると、「家にいた方が良いのか避難所に向かうのかの判断に迷う」はJ地区で、「家族の安否確認がとれるか不安だ」はG地区でそれぞれ5割を超え最も高くなっている。「自身または家族が高齢のため速やかに避難できるか不安だ」は、E地区で3割台後半と最も高くなっている。

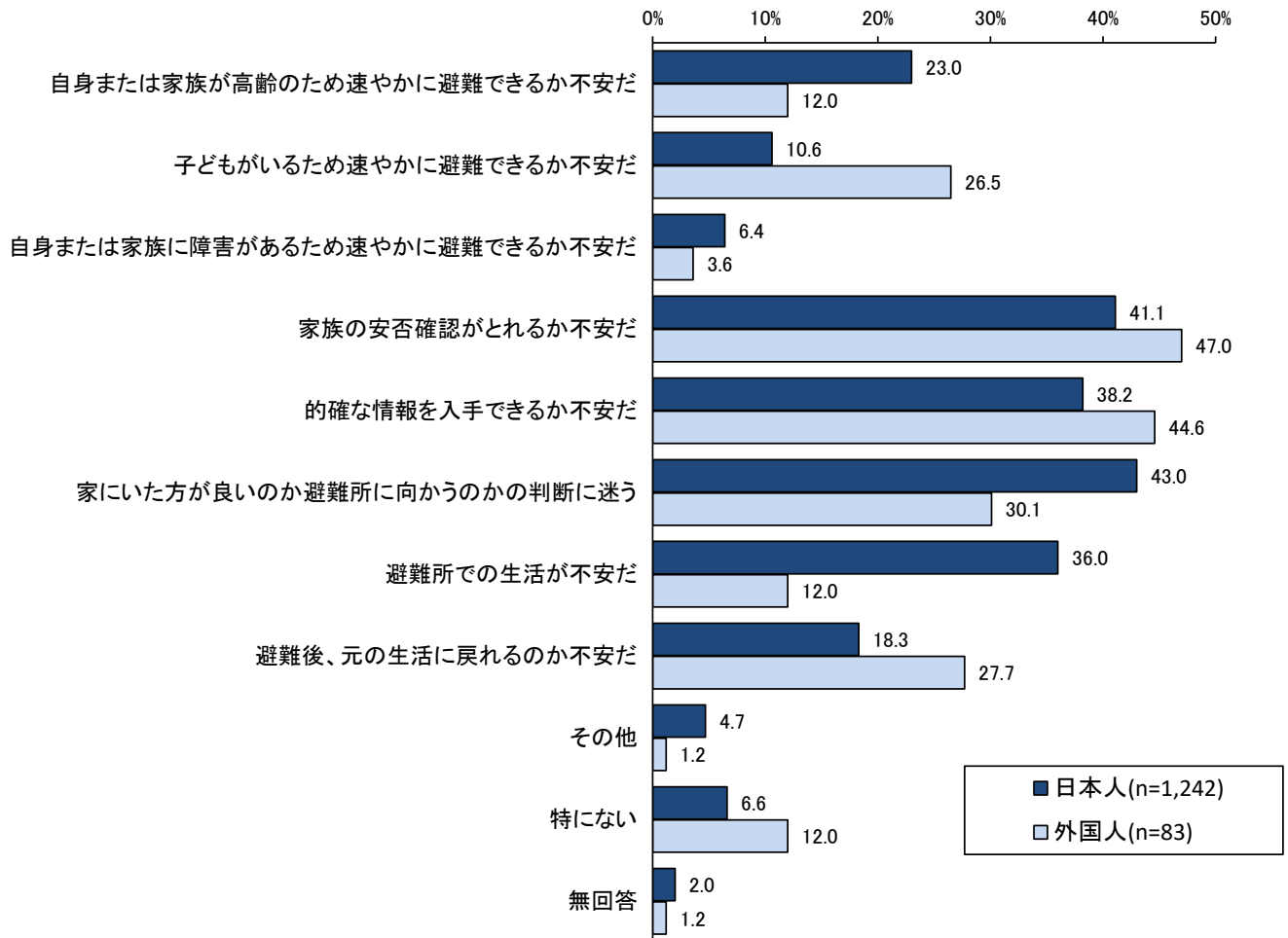
【問 40_地区別】

		き の た め 不 安 だ	自 身 ま た は 家 族 が 高 齢	だ に 避 難 し な い か ん ん だ	か ど も が い る た め 不 安 だ	子 ど も が い る た め 不 安 だ	難 が あ る た め 不 安 だ	が あ る た め 不 安 だ	自 身 ま た は 家 族 に 障 害	る 家 族 の 安 否 確 認 が と れ	る 確 かな な 情 報 を 入 手 で き	判 断 に 迷 う か の か	避 難 所 に 向 か う か の か	家 族 の 生 活 が 不 安	だ 避 難 所 で の 生 活 が 不 安	れ 避 難 後 か 元 の 生 活 に 戻	そ の 他	特 に な い	無 回 答	
	n=																			(%)
全体	1,325	22.3	11.6	6.3	41.4	38.6	★42.2	34.5	18.9	4.5	6.9	2.0								
A地区（第1北部地区）	78	23.1	15.4	11.5	38.5	37.2	★46.2	41.0	11.5	3.8	6.4	-								
B地区（第1地区中部のうち、 長者町を除く）	106	22.6	9.4	5.7	31.1	42.5	★43.4	28.3	26.4	2.8	6.6	0.9								
C地区（関内地区）	44	18.2	9.1	4.5	27.3	★38.6	★38.6	36.4	18.2	13.6	11.4	2.3								
D地区（埋地地区のうち、寿 町・松影町・三吉町を除く）	84	20.2	7.1	6.0	33.3	31.0	★38.1	32.1	17.9	6.0	16.7	2.4								
E地区（寿地区のうち、扇町・ 長者町を除く）	27	37.0	3.7	-	14.8	44.4	29.6	★48.1	25.9	-	7.4	7.4								
F地区（石川打越地区）	39	28.2	10.3	5.1	35.9	33.3	28.2	★46.2	17.9	7.7	2.6	2.6								
G地区（第2地区）	167	18.6	15.0	5.4	★53.3	38.3	43.7	24.6	16.2	3.6	7.2	3.6								
H地区（第3地区のうち、滝之 上を除く）	218	20.6	9.6	6.4	42.2	44.0	★45.9	35.8	19.3	6.0	5.0	2.3								
I地区（第4地区南部のうち、 本牧荒井を除く）	109	24.8	11.9	3.7	37.6	★40.4	★40.4	35.8	17.4	4.6	4.6	2.8								
J地区（第4地区北部のうち、 山手町を除く）	53	17.0	11.3	13.2	37.7	43.4	★54.7	30.2	22.6	-	7.5	1.9								
K地区（本牧・根岸地区のう ち、本牧原を除く）	194	27.3	11.9	6.7	★48.5	35.6	42.3	35.1	20.1	3.6	6.2	0.5								
L地区（第6地区のうち、山手 町を除く）	115	16.5	14.8	5.2	★46.1	33.0	36.5	45.2	22.6	3.5	5.2	0.9								
M地区（新本牧地区）	81	23.5	14.8	4.9	44.4	37.0	★45.7	29.6	13.6	3.7	7.4	2.5								

「問 40 災害発生に対して不安に感じていること」（3つまで回答）－ 5

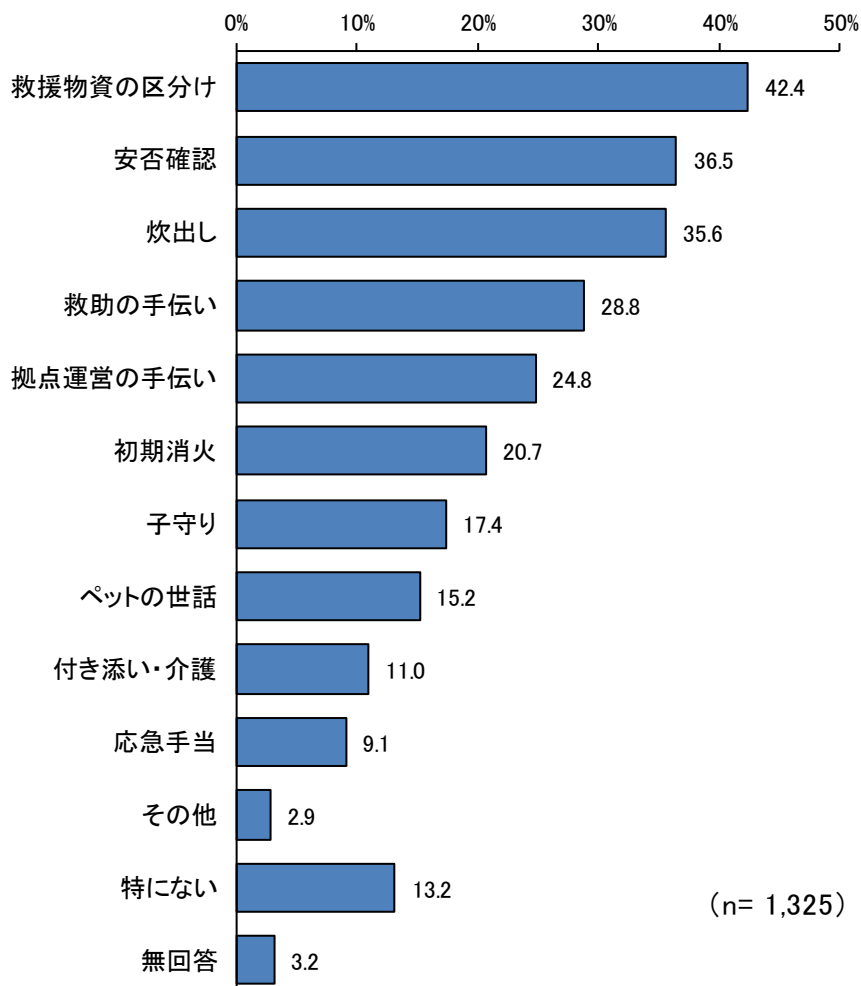
日本人／外国人別にみると、「子どもがいるため速やかに避難できるか不安だ」「避難後、元の生活に戻れるのか不安だ」は、外国人が日本人より特に高くなっている。また、「家族の安否確認がとれるか不安だ」「的確な情報を入手できるか不安だ」も外国人の方が高くなっている。

【問 40_日本人／外国人別】



「問 41 災害時に地域のためにできること」(複数回答) - 1

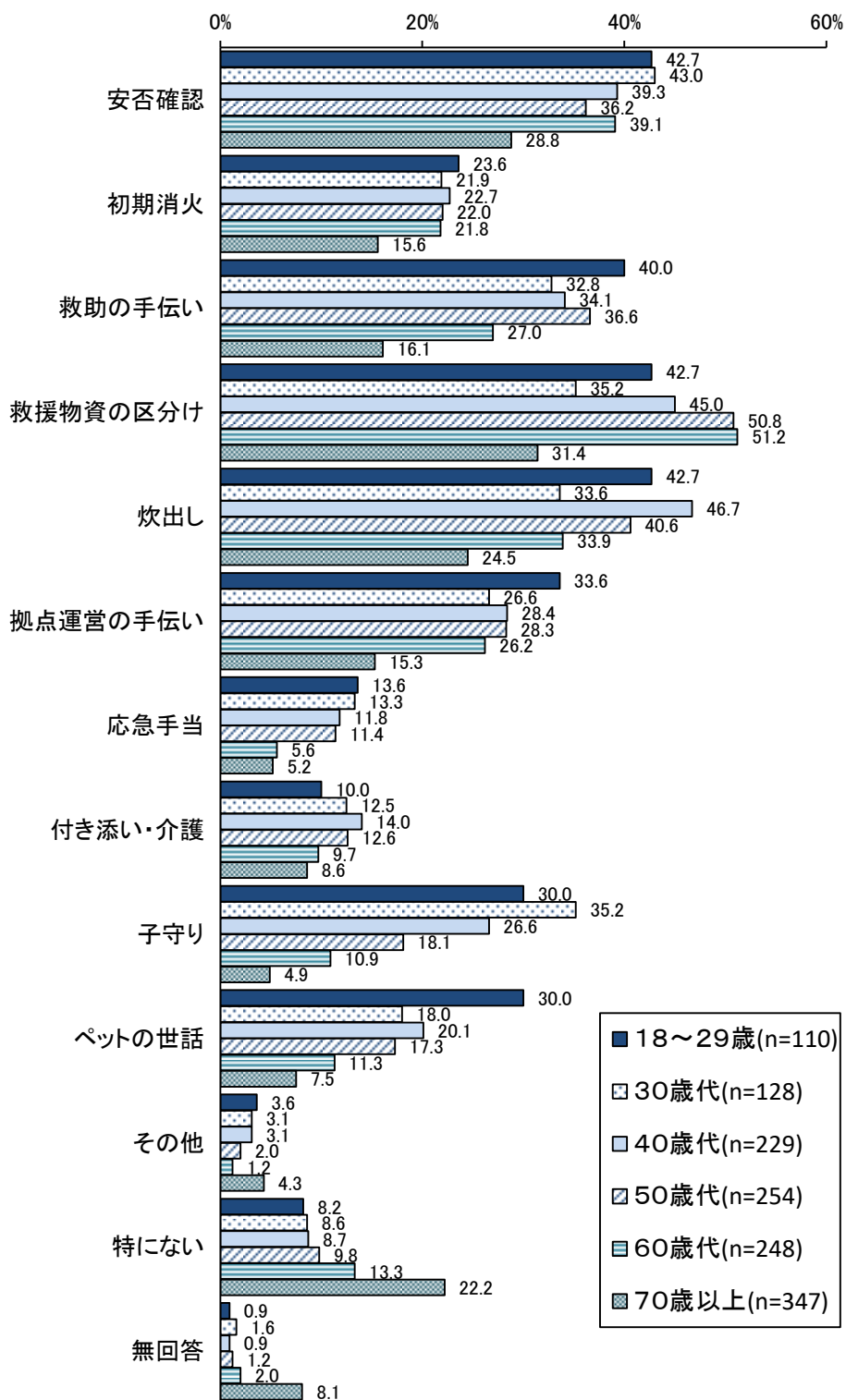
災害時に地域のためにできることについては、「救援物資の区分け」が4割を超え最も高くなっている。次いで、「安否確認」「炊出し」が3割台、「救助の手伝い」「拠点運営の手伝い」「初期消火」が2割台などとなっている。



「問 41 災害時に地域のためにできること」（複数回答）－ 2

年代別にみると、「救援物資の区分け」は50歳代・60歳代で約5割と高く、「安否確認」は18～29歳・30歳代で4割を超え高くなっている。また、「救助の手伝い」「拠点運営の手伝い」「ペットの世話」など18～29歳の割合が高いものが比較的多くみられる。

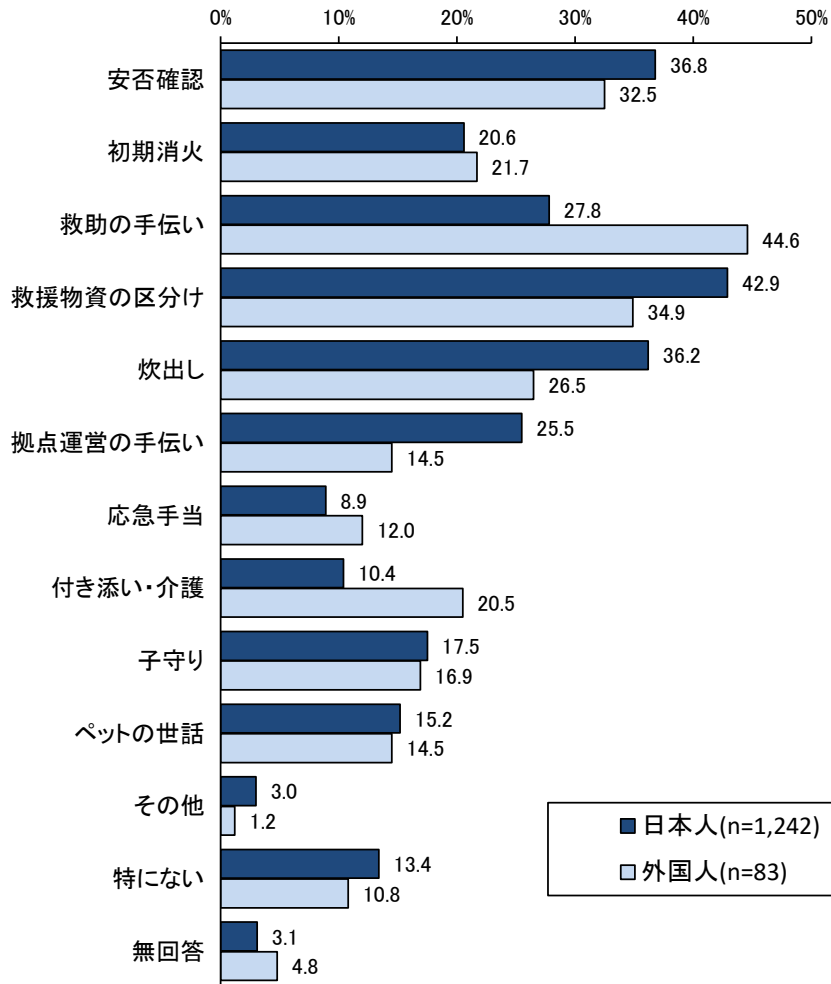
【問 41_年代別】



「問 41 災害時に地域のためにできること」（複数回答）－ 3

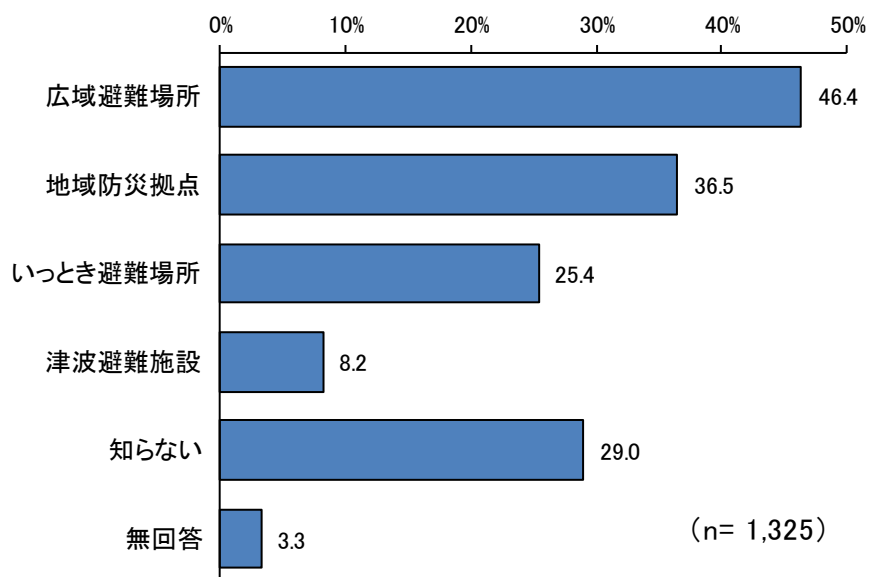
日本人／外国人別にみると、「救助の手伝い」「付き添い・介護」で外国人の割合が日本人に比べ特に高くなっているのが目立つ。

【問 41_日本人／外国人別】



「問 42 知っている避難場所・避難所」（複数回答）－ 1

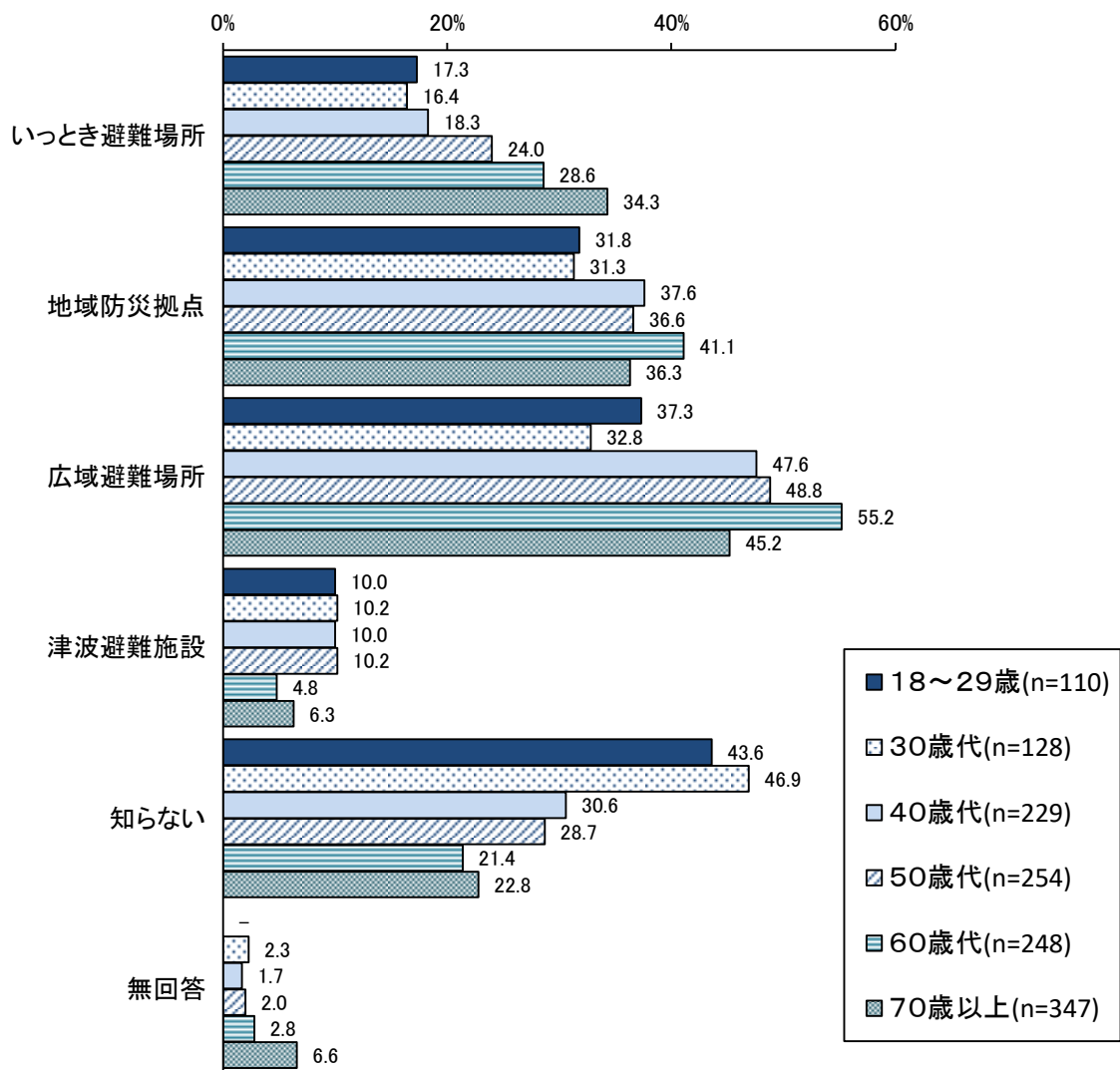
知っている避難場所・避難所については、「広域避難場所」が4割半ばで最も高くなっている。「地域防災拠点」は3割半ば、「いっとき避難場所」は2割半ば、「津波避難施設」は1割弱の人が知っている。また、3割弱の人は避難場所・避難所について「知らない」と回答している。



「問 42 知っている避難場所・避難所」（複数回答）－ 2

年代別にみると、「広域避難場所」は60歳代、「いつとき避難場所」は70歳以上が最も高く、それぞれ若年層の割合は低くなっている。「知らない」は30歳代が4割台後半、18～29歳で4割台前半と高くなっている。

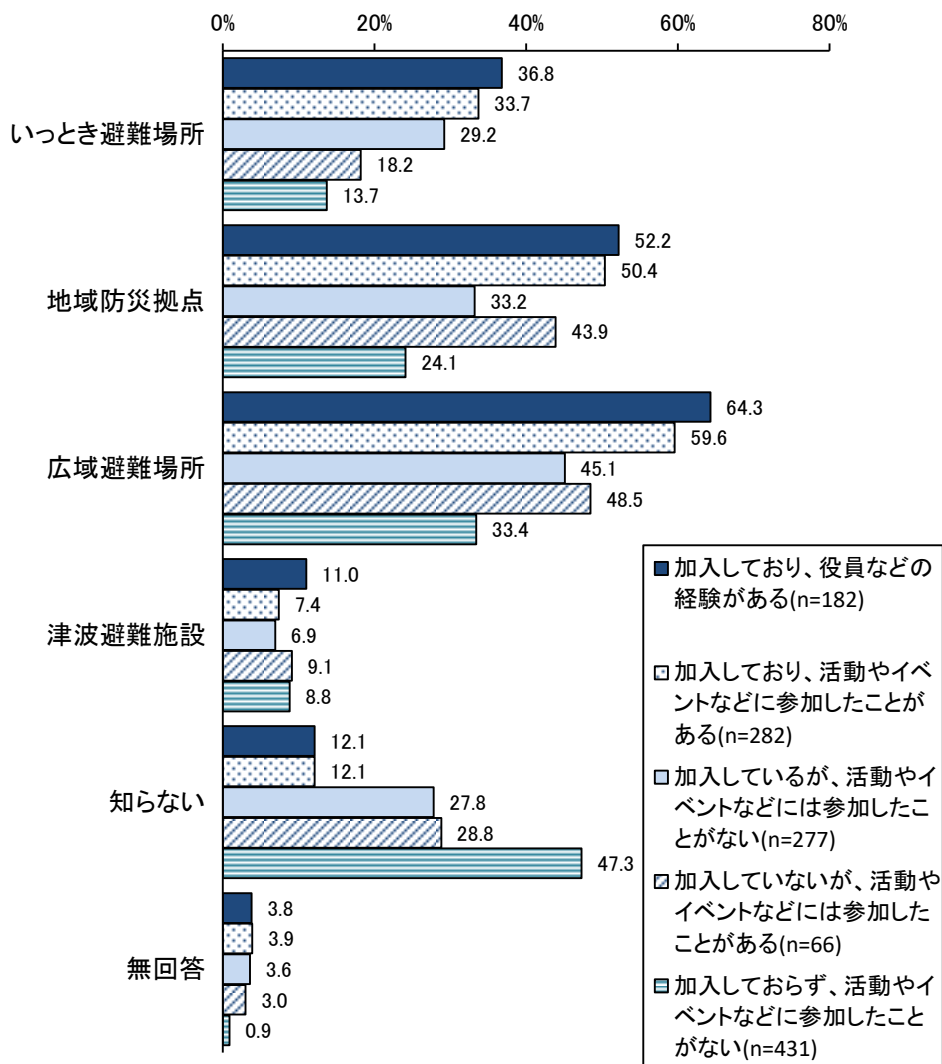
【問 42_年代別】



「問 42 知っている避難場所・避難所」(複数回答) - 3

自治会町内会加入・活動等参加状況別にみると、「知らない」は『加入しておらず、活動やイベントなどに参加したことがない』という人では5割近くと特に高くなっている。

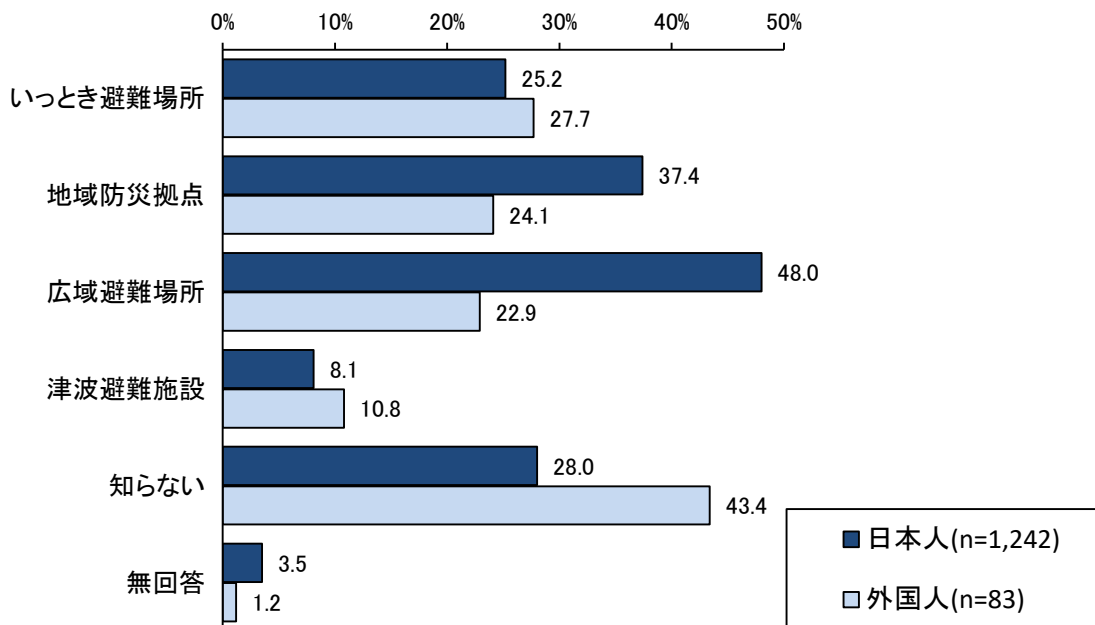
【問 42_自治会町内会加入・活動等参加状況別】



「問 42 知っている避難場所・避難所」（複数回答）－ 4

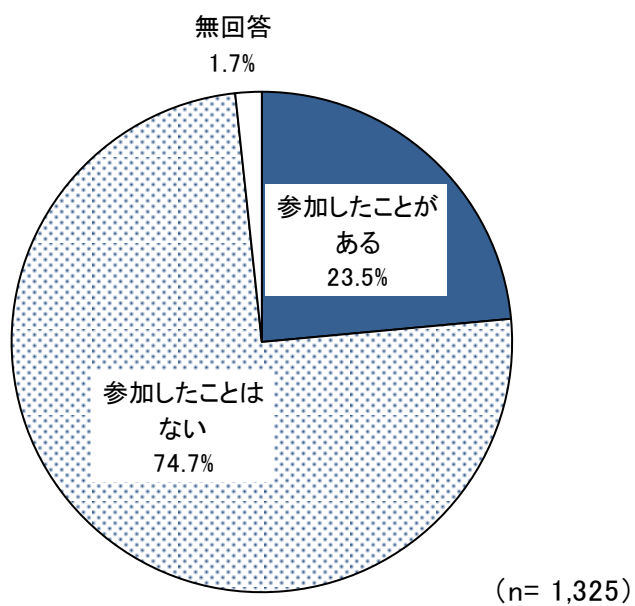
日本人／外国人別にみると、外国人では「知らない」が4割を超え高くなっており、「広域避難場所」「地域防災拠点」を知っている割合は日本人に比べ低くなっている。一方、「いつとき避難場所」「津波避難施設」は日本人よりもやや高くなっている。

【問 42_日本人／外国人別】



「問 43 防災訓練、防災減災説明会等の参加経験」－ 1

防災訓練、防災減災説明会等の参加経験については、「参加したことがある」が2割強、「参加したことはない」が7割半ばとなっている。

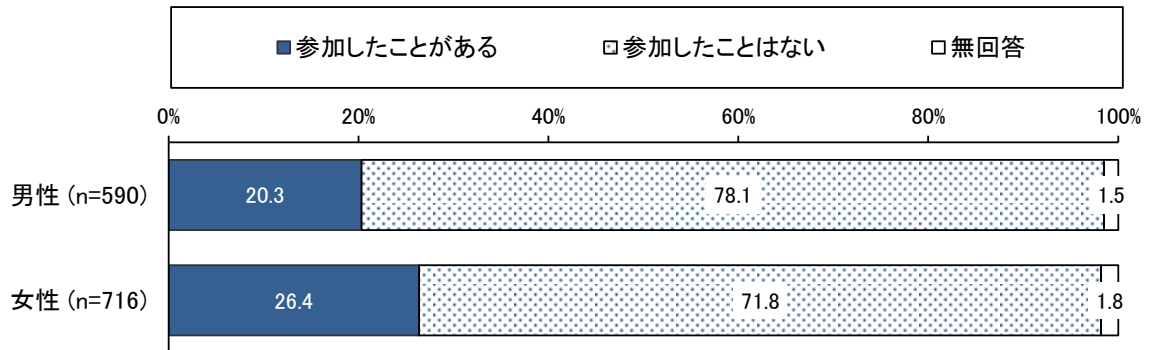


「問 43 防災訓練、防災減災説明会等の参加経験」－ 2

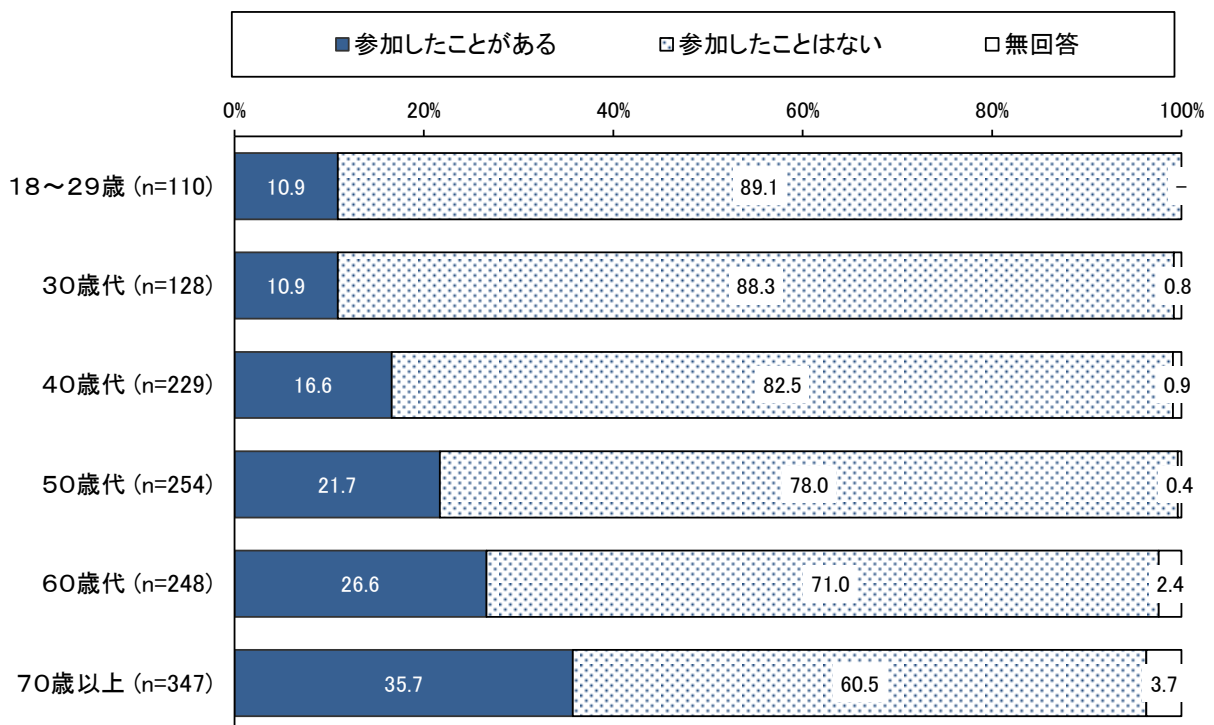
性別にみると、女性の方が参加経験者の割合が高くなっている。

年代別にみると、年代が上がるにつれ参加経験者の割合が高く、70歳以上では3割半ばとなっている。18～29歳・30歳代では、参加経験者は約1割にとどまっている。

【問 43_性別】



【問 43_年代別】



「問 43 防災訓練、防災減災説明会等の参加経験」－ 3

地区別にみると、参加経験者の割合が最も高い地区は、M地区で4割近く、次いでK地区が3割台前半となっている。一方、参加経験者の割合が低い地区は、B地区、E地区、C地区で約1割にとどまっている。

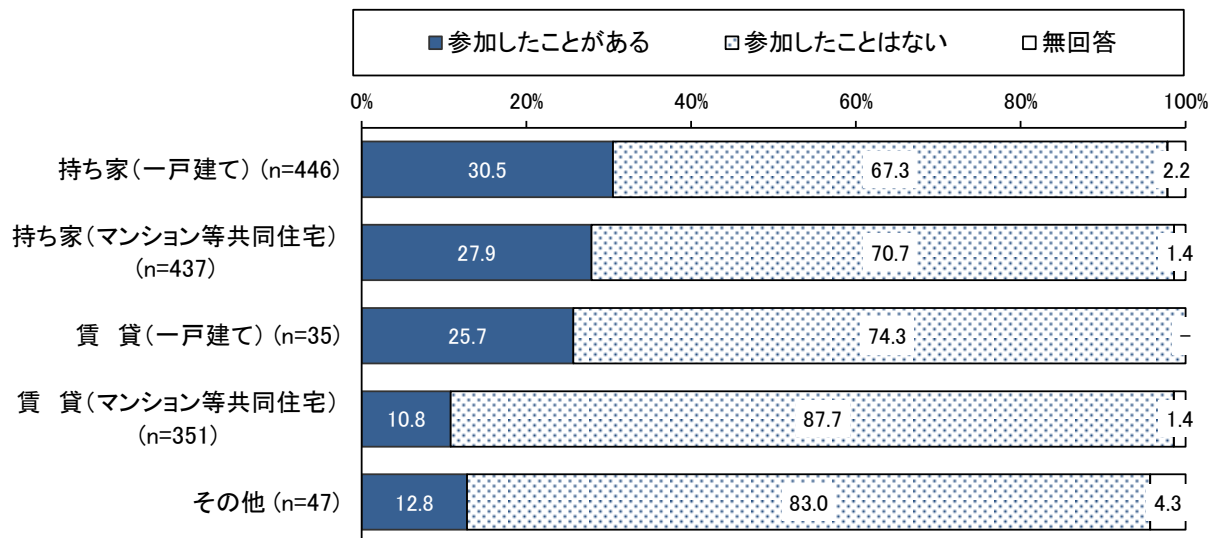
【問 43_地区別】

		参加したことがある	参加したことはない	無回答
	n=			(%)
全体	1,325	23.5	★74.7	1.7
A地区（第1北部地区）	78	21.8	★78.2	-
B地区（第1地区中部のうち、長者町を除く）	106	10.4	★88.7	0.9
C地区（関内地区）	44	11.4	★86.4	2.3
D地区（埋地地区のうち、寿町・松影町・三吉町を除く）	84	16.7	★79.8	3.6
E地区（寿地区のうち、扇町・長者町を除く）	27	11.1	★81.5	7.4
F地区（石川打越地区）	39	23.1	★74.4	2.6
G地区（第2地区）	167	24.0	★75.4	0.6
H地区（第3地区のうち、滝之上を除く）	218	19.7	★78.9	1.4
I地区（第4地区南部のうち、本牧荒井を除く）	109	26.6	★67.0	6.4
J地区（第4地区北部のうち、山手町を除く）	53	22.6	★77.4	-
K地区（本牧・根岸地区のうち、本牧原を除く）	194	33.5	★66.0	0.5
L地区（第6地区のうち、山手町を除く）	115	27.0	★71.3	1.7
M地区（新本牧地区）	81	38.3	★60.5	1.2

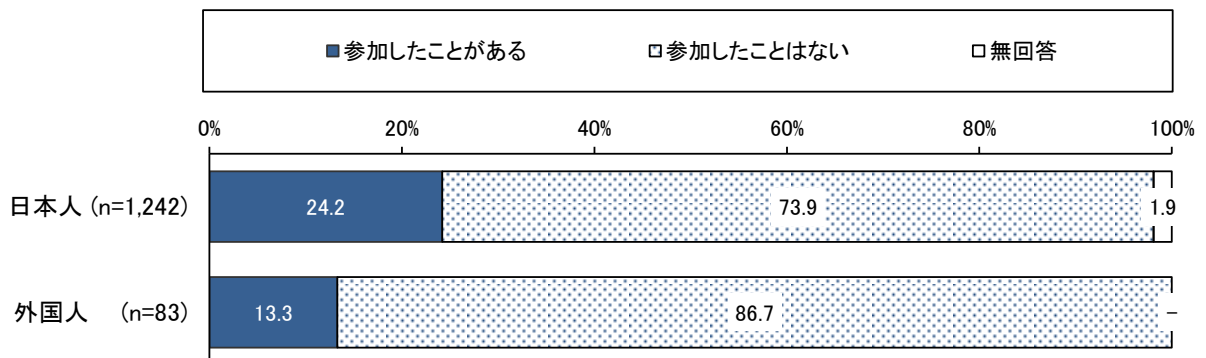
「問 43 防災訓練、防災減災説明会等の参加経験」－ 4

居住形態別にみると、参加経験は持ち家（一戸建て）居住者で約3割と最も高くなっている。賃貸（マンション等共同住宅）居住者では、参加経験は約1割にとどまっている。
日本人／外国人別にみると、外国人の参加経験者の割合は日本人に比べ低く、1割台前半となっている。

【問 43_居住形態別】

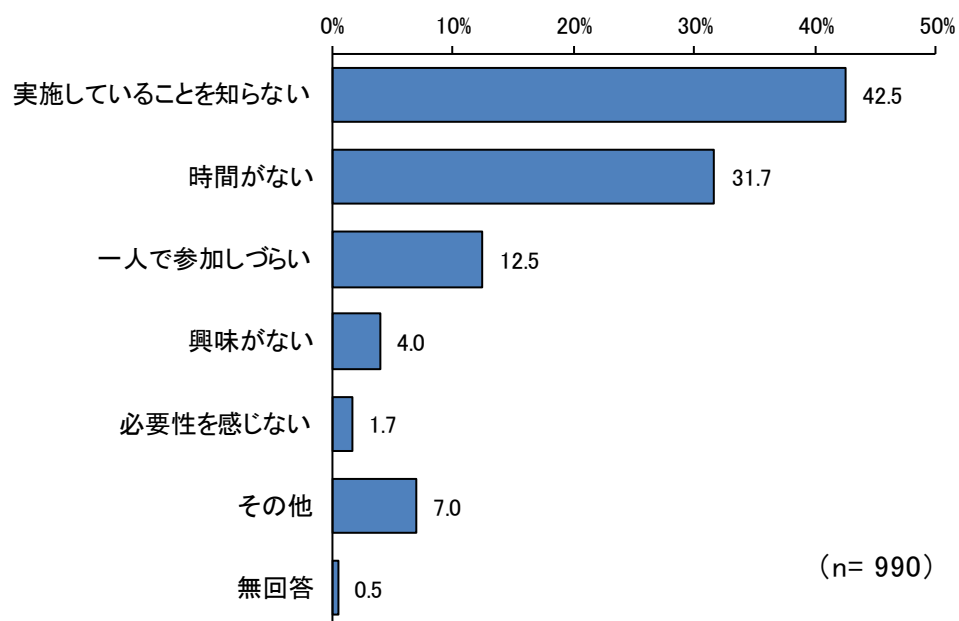


【問 43_日本人／外国人別】



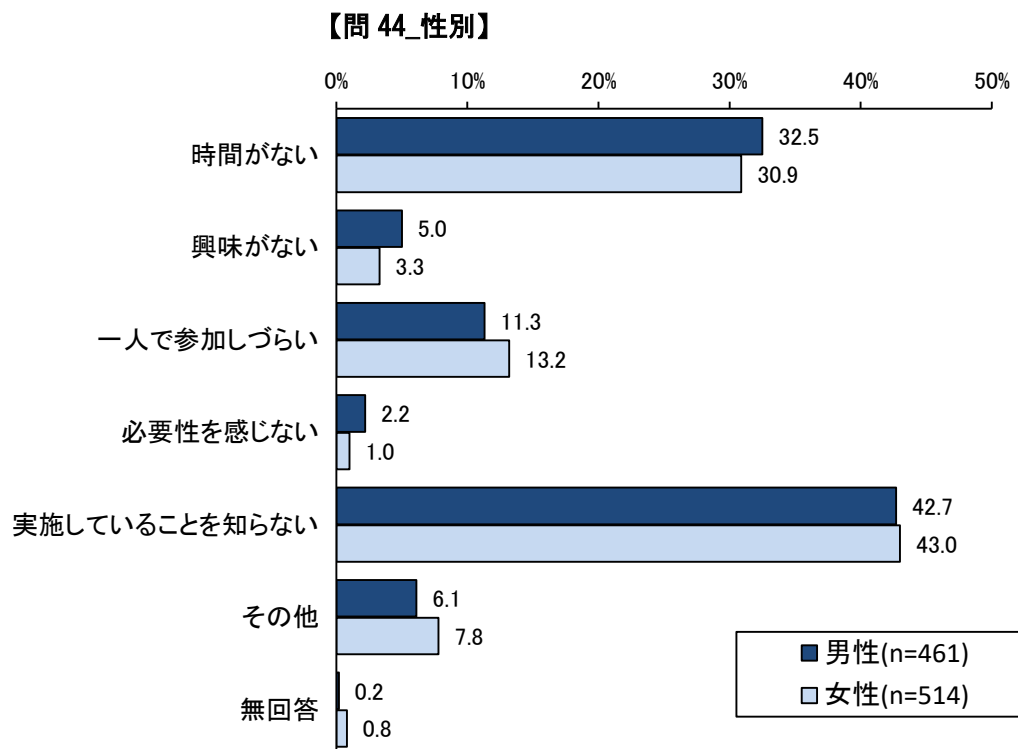
「問 44 防災訓練等に参加していない理由」－ 1

防災訓練等に参加していない理由については、「実施していることを知らない」が4割強で最も高くなっている。次いで、「時間がない」が3割強、「一人で参加しづらい」が1割強などとなっている。「その他」の内容としては、“高齢のため”“歩行困難のため”などの回答がみられた。



「問 44 防災訓練等に参加していない理由」－ 2

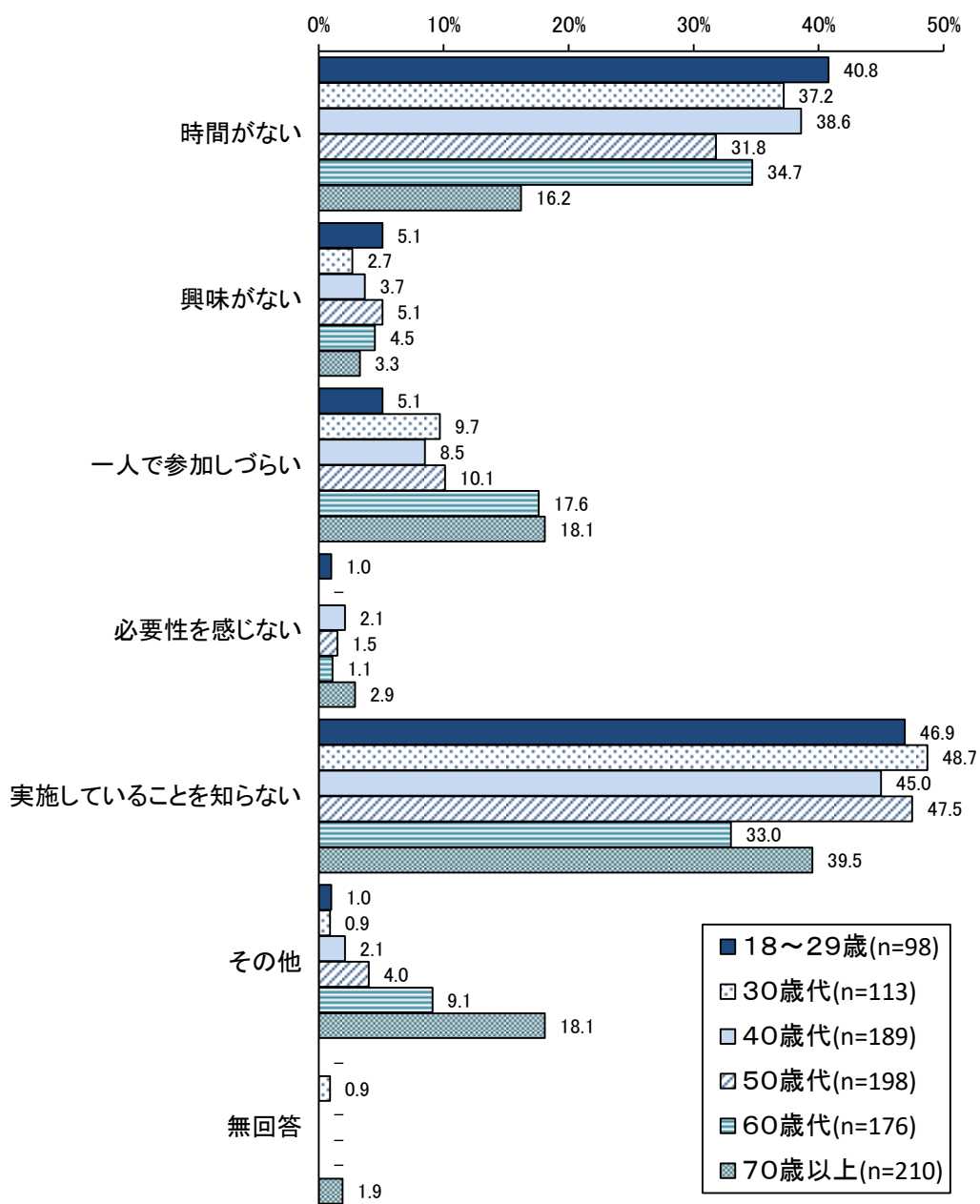
性別では、男女間で大きな差がみられるものはなかった。



「問 44 防災訓練等に参加していない理由」－ 3

年代別にみると、「実施していることを知らない」が50歳代以下と60歳代以上で差が大きく、50歳代以下では4割台後半と高くなっている。「一人で参加しづらい」は、60歳代・70歳以上で2割近くと高くなっている。

【問 44_年代別】



「問 44 防災訓練等に参加していない理由」－ 4

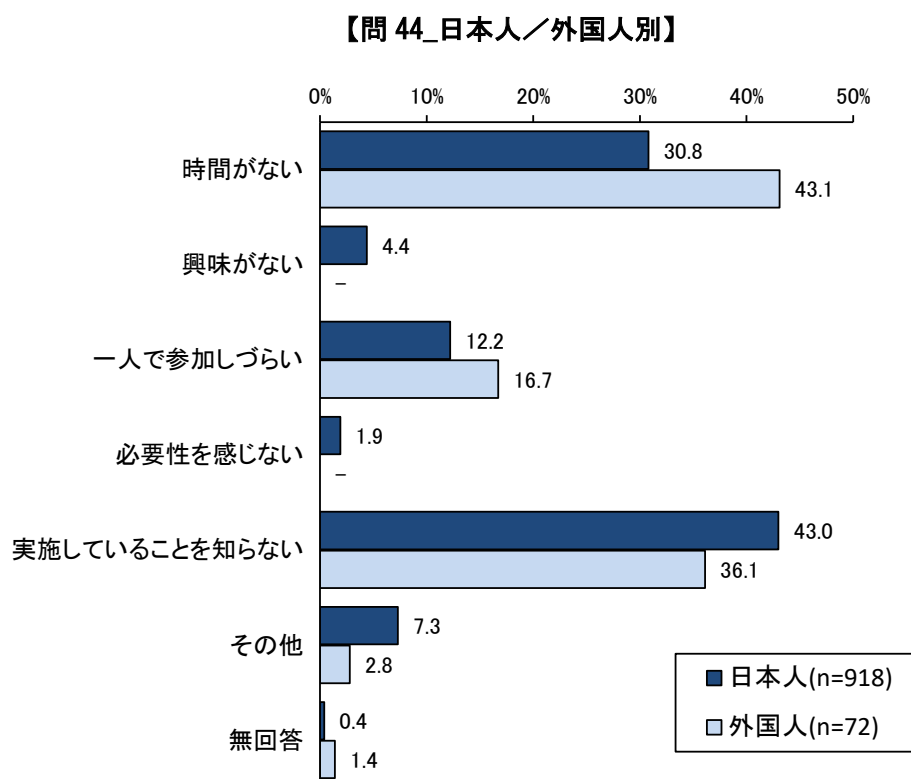
地区別にみると、「実施していることを知らない」はC地区、A地区で5割を超え高くなっている。一方、I地区、F地区では3割台前半と比較的低くなっている。

【問 44_地区別】

									(%)
	n=	時間がない	興味がない	一人で参加しづらい	必要性を感じない	知らない	実施していることを知	その他	無回答
全体	990	31.7	4.0	12.5	1.7	★42.5	7.0	0.5	
A地区（第1北部地区）	61	29.5	1.6	4.9	-	★54.1	9.8	-	
B地区（第1地区中部のうち、長者町を除く）	94	29.8	4.3	11.7	-	★44.7	8.5	1.1	
C地区（関内地区）	38	23.7	-	13.2	-	★57.9	5.3	-	
D地区（埋地地区のうち、寿町・松影町・三吉町を除く）	67	22.4	4.5	9.0	1.5	★49.3	13.4	-	
E地区（寿地区のうち、扇町・長者町を除く）	22	18.2	13.6	13.6	9.1	★40.9	-	4.5	
F地区（石川打越地区）	29	★41.4	3.4	17.2	-	34.5	3.4	-	
G地区（第2地区）	126	30.2	5.6	7.1	3.2	★47.6	6.3	-	
H地区（第3地区のうち、滝之上を除く）	172	36.6	4.1	12.8	1.2	★39.0	5.2	1.2	
I地区（第4地区南部のうち、本牧荒井を除く）	73	★37.0	5.5	17.8	4.1	31.5	4.1	-	
J地区（第4地区北部のうち、山手町を除く）	41	31.7	-	17.1	-	★43.9	4.9	2.4	
K地区（本牧・根岸地区のうち、本牧原を除く）	128	35.2	5.5	14.8	1.6	★36.7	6.3	-	
L地区（第6地区のうち、山手町を除く）	82	32.9	3.7	9.8	-	★41.5	12.2	-	
M地区（新本牧地区）	49	26.5	-	20.4	2.0	★44.9	6.1	-	

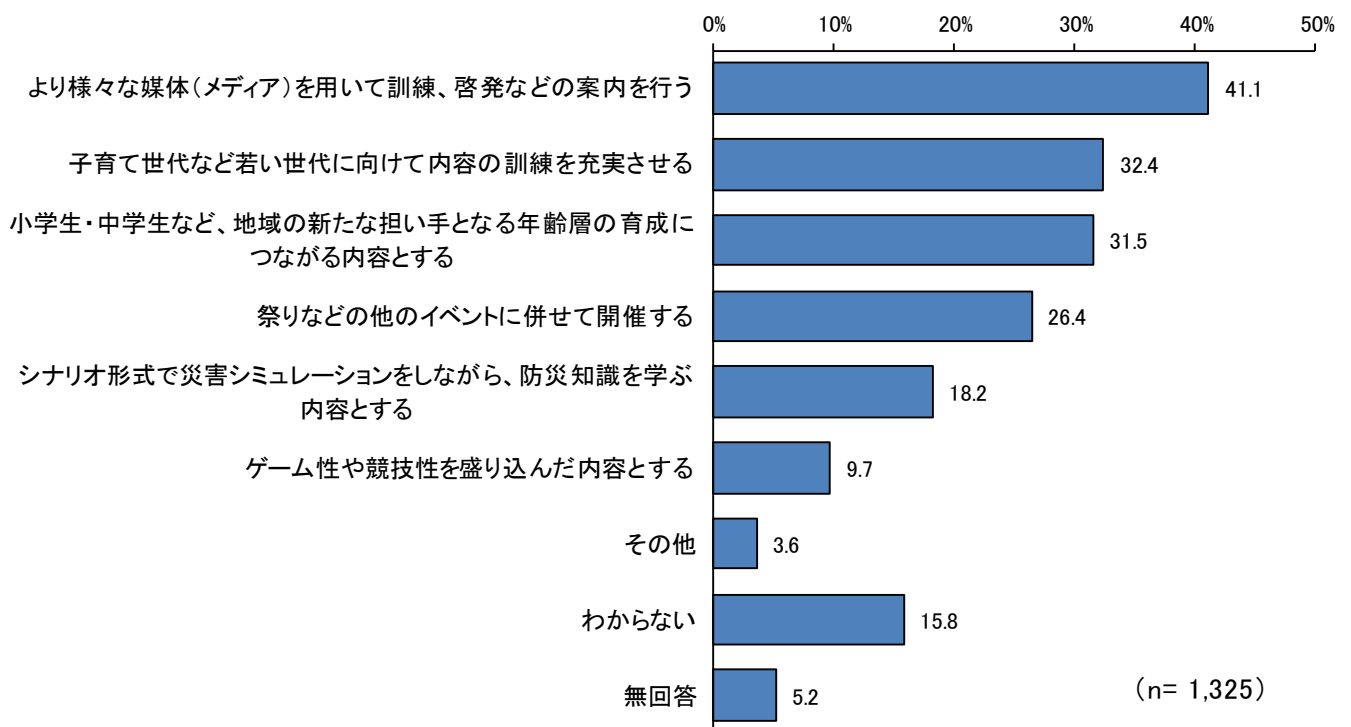
「問 44 防災訓練等に参加していない理由」－ 5

日本人／外国人別にみると、「実施していることを知らない」は日本人より外国人の方が低くなっている。一方、「時間がない」は外国人の方が高い。



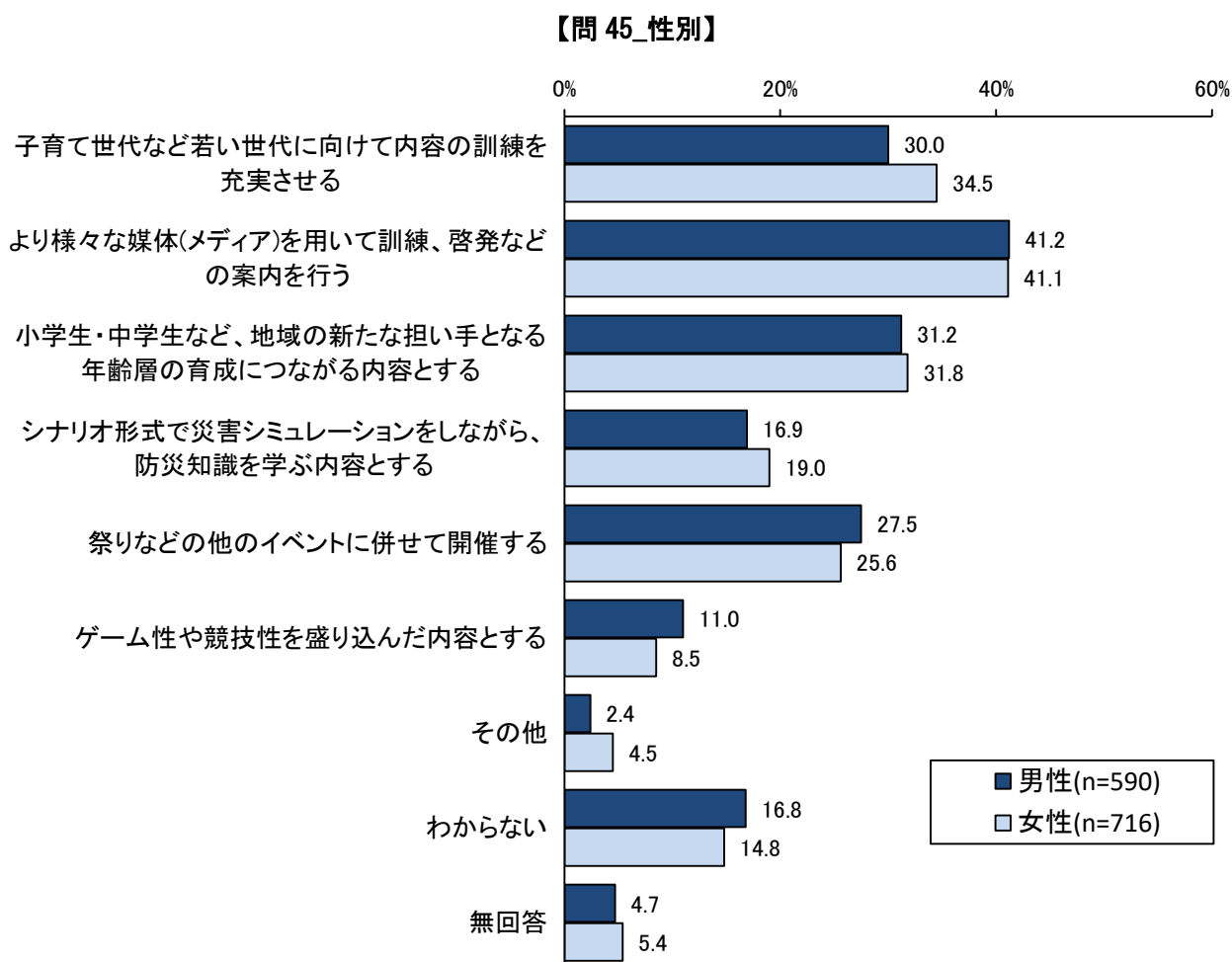
「問 45 参加者を増やすためにどのような工夫が必要だと思うか」（複数回答）－ 1

訓練・啓発等の参加者を増やすためにどのような工夫が必要だと思うか尋ねたところ、「より様々な媒体（メディア）を用いて訓練、啓発などの案内を行う」が4割を超え最も高くなっている。次いで、「子育て世代など若い世代に向けて内容の訓練を充実させる」「小学生・中学生など、地域の新たな担い手となる年齢層の育成につながる内容とする」が3割強、「祭りなどの他のイベントに併せて開催する」が2割半ばとなっている。



「問 45 参加者を増やすためにどのような工夫が必要だと思うか」（複数回答）－ 2

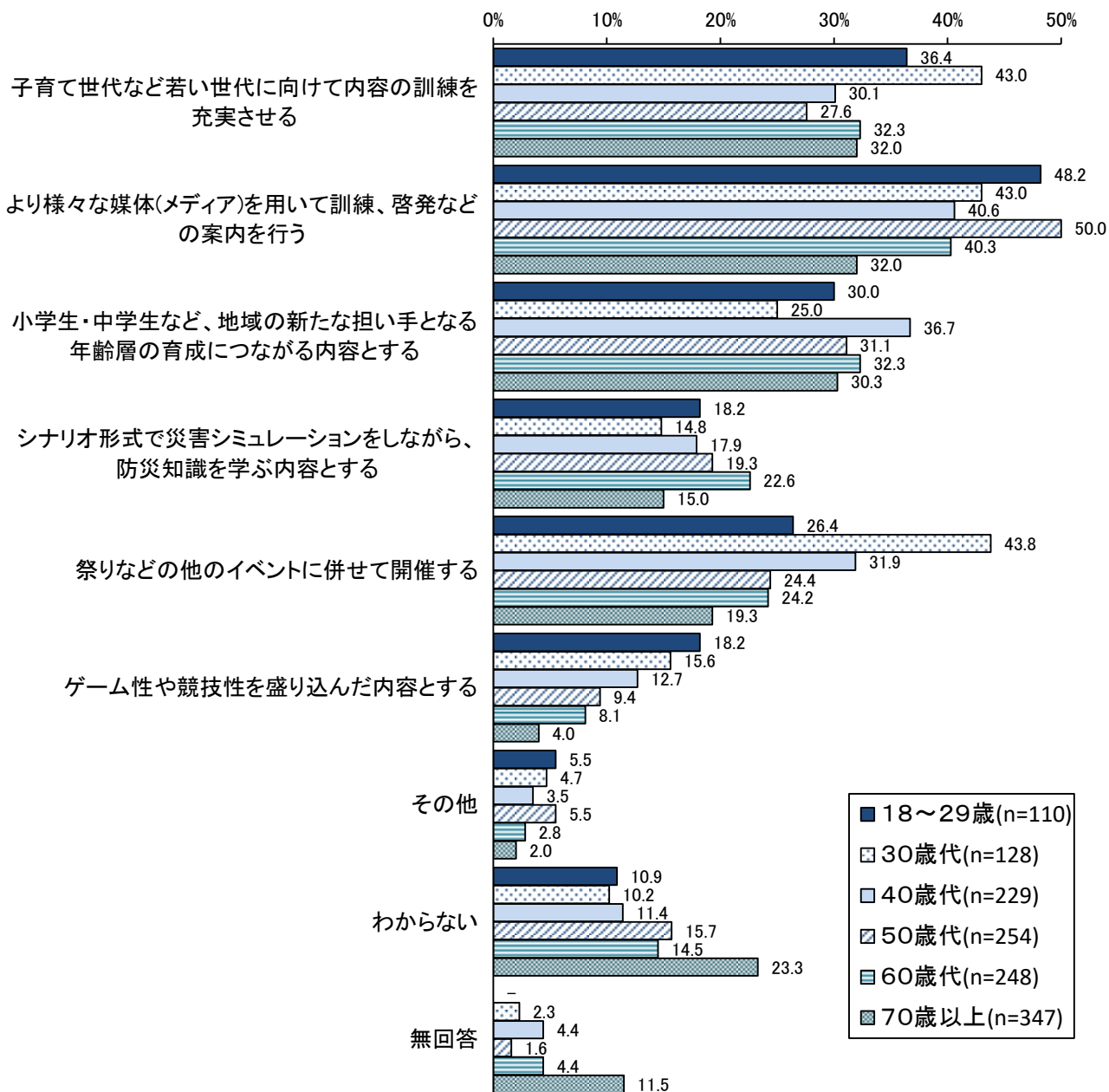
性別にみると、「子育て世代など若い世代に向けて内容の訓練を充実させる」は女性で割合が高くなっている。



「問 45 参加者を増やすためにどのような工夫が必要だと思うか」（複数回答）－ 3

年代別にみると、「より様々な媒体（メディア）を用いて訓練、啓発などの案内を行う」は50歳代・18～29歳で高くなっている。「子育て世代など若い世代に向けて内容の訓練を充実させる」「祭りなどの他のイベントに併せて開催する」は、30歳代が4割を超えそれぞれ最も高くなっている。

【問 45_年代別】



「問 45 参加者を増やすためにどのような工夫が必要だと思うか」（複数回答）－ 4

日本人／外国人別にみると、「より様々な媒体（メディア）を用いて訓練、啓発などの案内を行う」は外国人の方が高く5割近くとなっている。一方、「小学生・中学生など、地域の新たな担い手となる年齢層の育成につながる内容とする」は日本人の3割強に対し外国人は約2割と低くなっている。

【問 45_日本人／外国人別】

